

# お香の輸出



2025年 全国・近畿圏ともに輸出金額 過去最高  
近畿圏 輸出数量・金額 全国シェア第1位

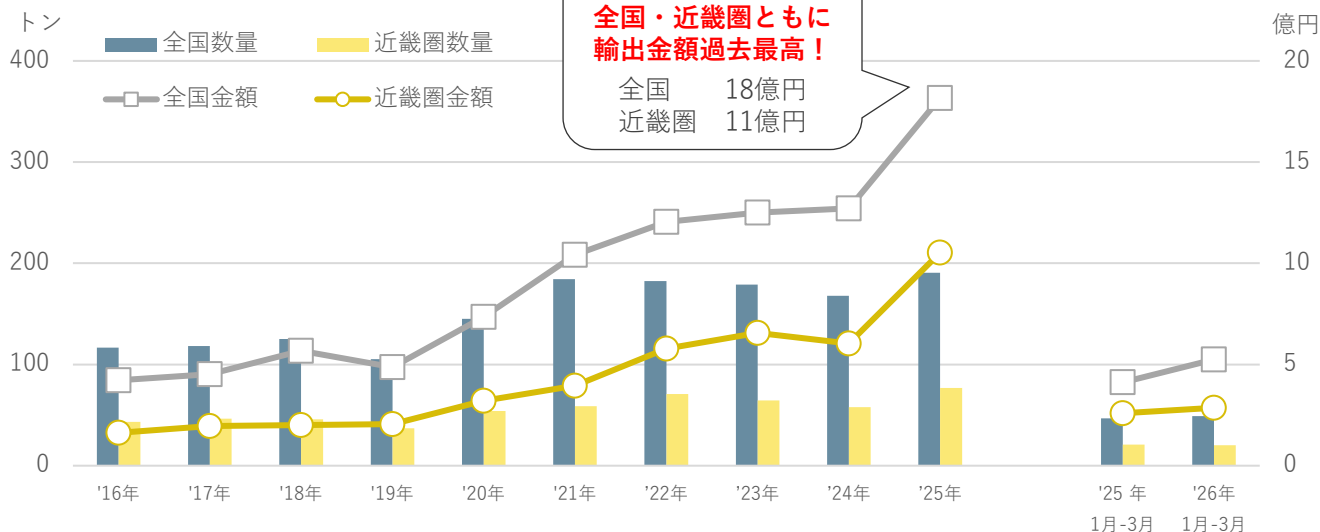
## 1.はじめに

「お香」といえば、仏具として使われるものや和室で楽しむ伝統的な香りを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。近年は、煙が少ないタイプや気軽に使えるスティックタイプに加え、短時間でもしっかり香りが広がる円錐形のコーンタイプ、長い燃焼時間で広い空間にも向く渦巻き型など、用途に合わせて選べる日常使いしやすいお香が増えています。伝統的な香りに加え、現代の暮らしに合った香りも楽しめるようになってきました。また、従来のイメージにとどまらず、リラックスや空間演出、ギフトなど、活用の幅が広がっています。

近畿圏は、お香づくりが盛んな地域として知られており、長年の経験を生かした製品は海外にも輸出されています。

今回は、お香の輸出動向について特集します。

## 2.年別輸出推移



2025年におけるお香の輸出額は、全国で18億円、近畿圏で11億円となり、比較可能な1988年以降で**全国・近畿圏ともに過去最高額**となりました。2016年と比較すると、全国で4.3倍、近畿圏で6.5倍となっています。

業界によりますと、海外におけるお香の利用は、従来の宗教的な用途に加え、瞑想やリラックス、空間づくり、ギフトなど、日常的な場面へと広がっているとのこと。特にコロナ禍以降は、家で一人の時間や空間を楽しむ中で、お香を新たに取り入れる動きがみられるようになりました。加えて、スパやヨガスタジオなどにも利用の場が広がったことが、輸出額の増加につながっているとみられます。

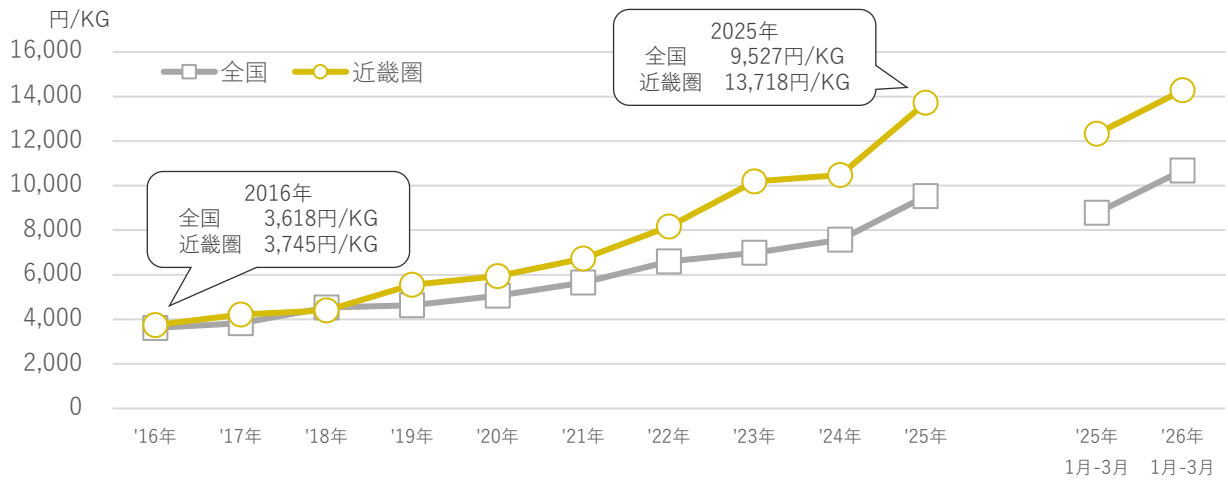
一方、輸出数量は全国で2016年比1.6倍、近畿圏で1.8倍にとどまっています。輸出額の伸びが数量の伸びを上回っていることから、単価の上昇がうかがえます。

本特集における「お香」は、輸出統計品目番号 3307.41 に分類されるものを集計したものです。

**3307.41-000** (アガバティその他の香気性の調製品で燃焼させて使用するもの)

部屋の香り付けや臭い消し、また宗教的な儀式で使用される製品のうち、燃焼させて香りを出すものを指します。香り付きろうそくは含まれません。

### 3.年別輸出単価推移



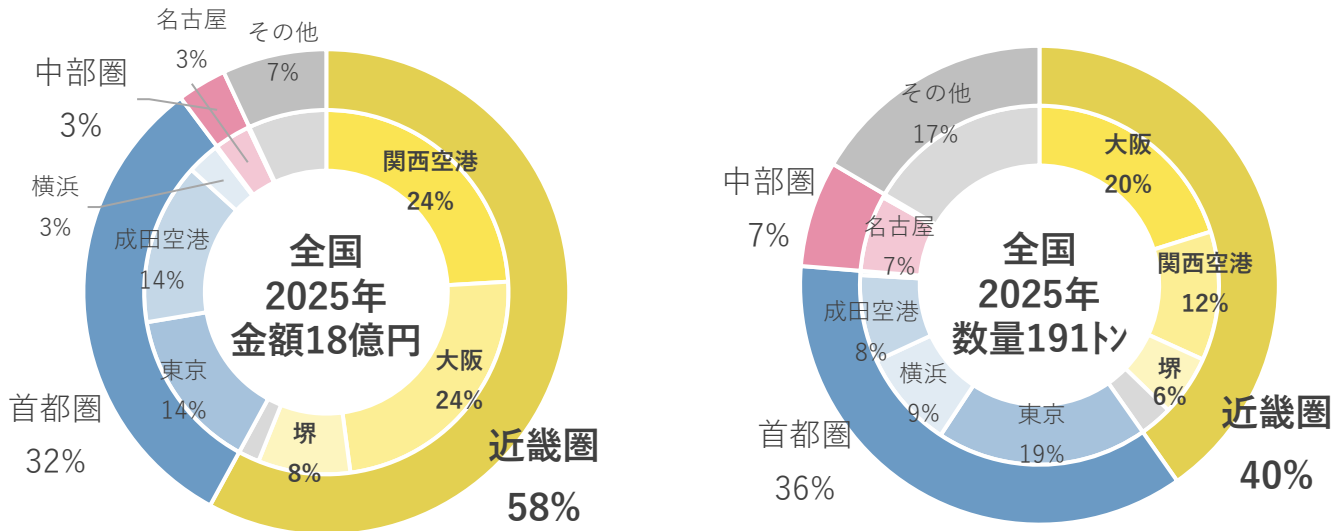
2016年から2025年の10年間で、お香の輸出単価（1KGあたりの輸出金額）は、全国で2.6倍、近畿圏で3.7倍と大きく上昇しました。

業界からは、日本におけるお香づくりの長い歴史や、それに裏付けられたブランド力、文化的な付加価値が海外市場で評価されていることが挙げられました。このほか、パッケージデザインに力を入れる企業が多いことも、商品の付加価値が評価される要因の一つと考えられます。

加えて、海外ブランド向け製品の製造が始まったことも、輸出単価の上昇に影響しているとの声が聞かれました。

特に近畿圏では、主要な生産拠点やメーカーが多く所在しており、伝統や品質といった強みを有する商品が多いことから、相対的に高い輸出単価で取引される傾向がみられます。

### 4.主要経済圏（港別）内訳



2025年に全国から輸出されたお香の金額は18億円、数量は191トンです。このうち、近畿圏からは金額で58%、数量で40%が輸出されており、経済圏別の全国シェアは、金額・数量ともに**第1位**となっています。

港別では、関西空港および大阪港からの輸出が多く、関西空港の全国シェアは金額で24%、数量で12%、大阪港の全国シェアは金額で24%、数量で20%を占めています。

近畿圏の港が多く利用される理由として、業界の方からは、事業拠点が近畿圏に所在していることによる輸送上の利便性の高さが挙げられました。また、アメリカやヨーロッパ、アジア向けの輸送体制が整っている点も挙げられています。

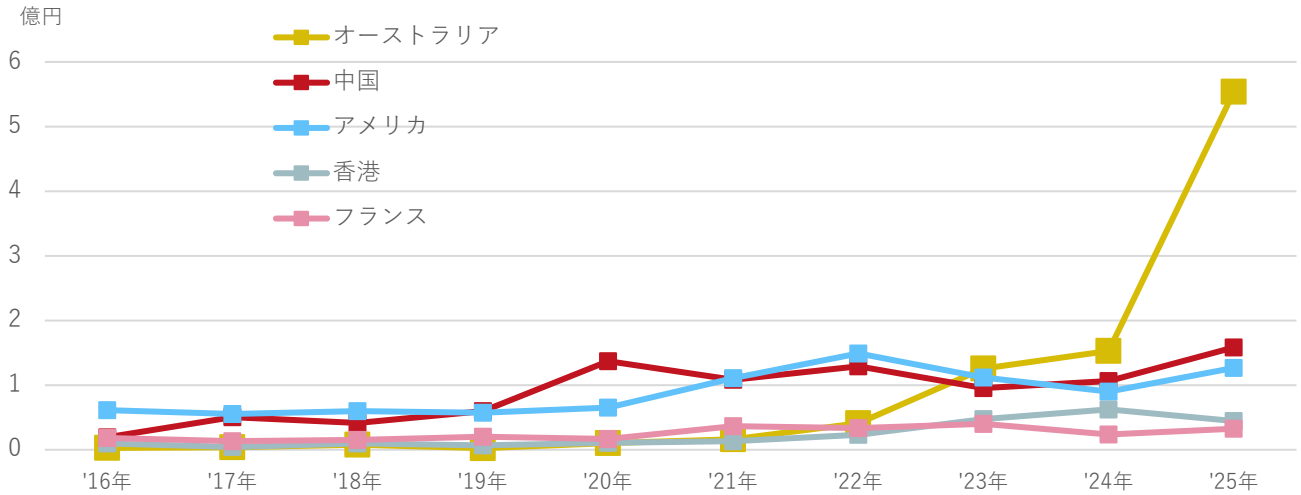
近畿圏は、古くからお香づくりが盛んな地域として知られており、現在も国内のお香生産の中心地となっています。国内生産に占める割合は、兵庫県が金額ベースで約49%、数量ベースで約44%と最も高く、京都府が金額ベースで26%、数量ベースで23%、大阪府が金額ベースで8%、数量ベースで7%を占めています（出典：総務省・経済産業省「2024年 経済構造実態調査」）。

## 5.近畿圏 仕向国別動向

近畿圏の仕向国別輸出金額の推移は、次のグラフのとおりです。

2022年頃までは、アメリカや中国向けが比較的高い水準で推移していましたが、2023年にはオーストラリア向けが最も多くなりました。その後も増加傾向が続き、2025年にはオーストラリア向けが大きく伸び、他の地域を上回っています。

オーストラリア向け輸出について、業界によりますと、現地では自然派思考を持つ人が多く、ヨガなどを通じたマインドフルネスへの意識も高いことから、お香は以前から定着していたとのこと。加えて、カスタムメイドなど個別の要望に応じた対応を進めたことで、近年は取引が増加しているとのこと。

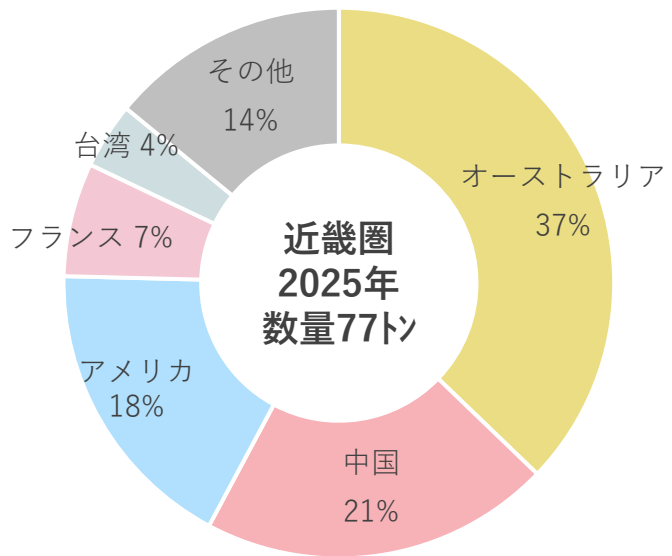
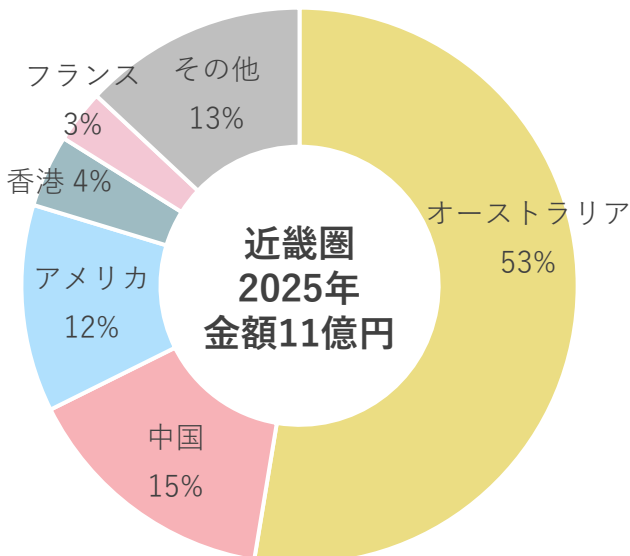


2025年の近畿圏の仕向国別構成比は、次のグラフのとおりです。

金額・数量ともにオーストラリアが第1位となっており、次いで、中国、アメリカの順となっています。金額・数量のいずれにおいても、この3か国で全体の約8割を占めています。

業界によりますと、オーストラリアについては前述したとおりで、中国や台湾、香港などのアジアでは、従来からの宗教的・儀礼的な用途に加え、近年は、空間づくりやリラックスを目的とした利用のほか、ギフト用途としても使われています。また、アメリカやヨーロッパでは、爽やかな香りや華やかな印象のものが選ばれる傾向がみられます。

このほか、地域を問わず、落ち着いた和の香りに対する需要もみられます。日本のお香は、インドや中国で製造されたお香と比べ、香りがやさしく繊細で、煙が穏やかな点に特徴があり、空間にほのかに広がる香りとして受け入れられているとのこと。



## 6.まとめ

日本のお香の歴史は非常に古く、その起源は飛鳥時代にまでさかのぼります。

仏教の伝来とともに香木がもたらされ、仏教儀礼で用いられるようになりました。『日本書紀』には推古三年（595年）、淡路島に漂着した香木を焚いた際の芳香に人々が驚き、朝廷に献上したと記されており、古くから香りが特別な存在として受け止められてきたことが分かります。

こうした背景をもとに、日本では独自の調香技術や製法が受け継がれ、現在に至るまで発展してきました。

業界の方のお話では、日本のお香は、品質の安定性や安心感に加え、落ち着いた香りや煙のやさしさといった特性が評価され、海外市場でも幅広い層に受け入れられているとのこと。また、多様な価格帯での商品展開やギフトにも適したパッケージ・デザインへの工夫、個々の要望に応じた丁寧な対応なども、日本のお香が選ばれる要因として挙げられています。

あわせて、SNSなどを通じた情報発信の広がりや、訪日客の増加による認知度の向上、越境ECの普及によって購入しやすい環境が整ったことも、海外での需要拡大につながっていると考えられます。

業界の方からは、香水やアロマキャンドルなどとは異なる、空間に広がる微かな香りを捉えるお香ならではの楽しみ方が、海外でも少しずつ理解されるようになってきているとの話が聞かれました。今後も、展示会やSNSなどを通じた情報発信の取り組みにより、日本のお香の魅力や香りの歴史や文化を伝えることで、新たな国や地域への展開を含め、輸出の拡大が見込まれるとのこと。

お香は今や、日常のさまざまな場面で気軽に楽しめるアイテムになりました。長い歴史と伝統技術に支えられ、海外でも評価される日本のお香。あなたの生活にぴったりと寄り添う香りを探してみたいかがでしょうか。



## 香十徳（こうじっとく）

お香の世界には、「香十徳（こうじっとく）」という「お香の十の効能」を説いた詩文があります。

「香十徳」は11世紀の中国王朝の北宋の詩人、黄庭堅によって記され、日本では室町時代に「一休さん」のお話で有名な一休宗純によって広められました。

- |     |      |                   |
|-----|------|-------------------|
| (一) | 感格鬼神 | 感覚を研ぎ澄ます（感は鬼神に格る） |
| (二) | 清淨心身 | 心身を清淨にする          |
| (三) | 能除汚穢 | よく汚穢を除く           |
| (四) | 能覺睡眠 | よく眠気を覚ます          |
| (五) | 静中成友 | 孤独感を癒す            |
| (六) | 塵裏偷閑 | 多忙時でも心を和ます        |
| (七) | 多而不厭 | 多くあっても邪魔にならない     |
| (八) | 寡而為足 | 少量でも芳香を放つ         |
| (九) | 久蔵不朽 | 久しく蔵しても朽ちず        |
| (十) | 常用無障 | 常に用いて障なし          |



(出典) 公益財団法人 お香の会

## ● 輸出数量・金額推移

年	全国					近畿圏				
	数量 (KG)		金額 (千円)		単価 (円/KG)	数量 (KG)		金額 (千円)		単価 (円/KG)
		前年比		前年比			前年比		前年比	
2016年	116,600	70.9%	421,902	93.0%	3,618	43,386	52.9%	162,491	81.2%	3,745
2017年	118,174	101.3%	451,480	107.0%	3,820	46,414	107.0%	195,397	120.3%	4,210
2018年	125,112	105.9%	567,129	125.6%	4,533	45,730	98.5%	201,138	102.9%	4,398
2019年	105,385	84.2%	487,473	86.0%	4,626	36,880	80.6%	204,746	101.8%	5,552
2020年	145,161	137.7%	735,463	150.9%	5,067	54,148	146.8%	321,329	156.9%	5,934
2021年	184,316	127.0%	1,041,156	141.6%	5,649	58,798	108.6%	395,348	123.0%	6,724
2022年	182,482	99.0%	1,204,148	115.7%	6,599	70,882	120.6%	578,698	146.4%	8,164
2023年	179,091	98.1%	1,250,005	103.8%	6,980	64,416	90.9%	656,265	113.4%	10,188
2024年	167,772	93.7%	1,271,660	101.7%	7,580	57,745	89.6%	604,628	92.1%	10,471
2025年	190,659	113.6%	1,816,502	142.8%	9,527	76,725	132.9%	1,052,516	174.1%	13,718

2025.1-3	46,931	107.2%	411,837	156.3%	8,775	21,012	150.6%	259,064	214.1%	12,329
2026.1-3	49,149	104.7%	525,059	127.5%	10,683	20,077	95.6%	286,625	110.6%	14,276

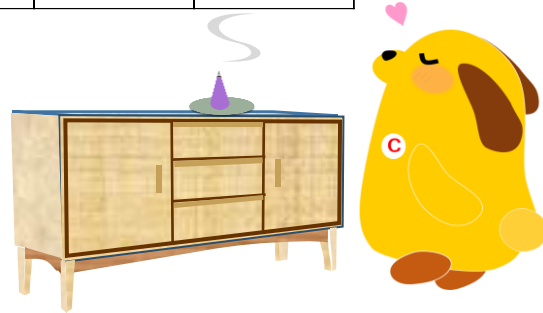
## ● 近畿圏 主要仕向国別輸出額推移

年	オーストラリア			中国			アメリカ			香港			フランス		
	(千円)	前年比	構成比	(千円)	前年比	構成比	(千円)	前年比	構成比	(千円)	前年比	構成比	(千円)	前年比	構成比
2016年	3,072	89.3%	1.9%	19,379	160.0%	11.9%	61,356	96.4%	37.8%	9,809	68.0%	6.0%	18,097	106.2%	11.1%
2017年	3,593	117.0%	1.8%	50,293	259.5%	25.7%	55,373	90.2%	28.3%	4,265	43.5%	2.2%	13,372	73.9%	6.8%
2018年	7,713	214.7%	3.8%	41,664	82.8%	20.7%	59,834	108.1%	29.7%	9,537	223.6%	4.7%	15,141	113.2%	7.5%
2019年	2,534	32.9%	1.2%	59,830	143.6%	29.2%	57,376	95.9%	28.0%	6,594	69.1%	3.2%	20,049	132.4%	9.8%
2020年	10,149	400.5%	3.2%	137,123	229.2%	42.7%	65,372	113.9%	20.3%	10,734	162.8%	3.3%	16,616	82.9%	5.2%
2021年	16,154	159.2%	4.1%	108,300	79.0%	27.4%	110,826	169.5%	28.0%	13,203	123.0%	3.3%	36,459	219.4%	9.2%
2022年	40,840	252.8%	7.1%	129,043	119.2%	22.3%	149,042	134.5%	25.8%	22,980	174.1%	4.0%	33,401	91.6%	5.8%
2023年	125,663	307.7%	19.1%	95,637	74.1%	14.6%	111,748	75.0%	17.0%	47,236	205.6%	7.2%	40,054	119.9%	6.1%
2024年	152,705	121.5%	25.3%	106,500	111.4%	17.6%	90,053	80.6%	14.9%	62,457	132.2%	10.3%	23,684	59.1%	3.9%
2025年	553,725	362.6%	52.6%	158,351	148.7%	15.0%	126,705	140.7%	12.0%	44,217	70.8%	4.2%	32,391	136.8%	3.1%

2025.1-3	143,366	1666.9%	55.3%	37,896	145.8%	14.6%	32,694	129.2%	12.6%	4,670	36.6%	1.8%	8,671	434.6%	3.3%
2026.1-3	152,768	106.6%	53.3%	29,456	77.7%	10.3%	35,009	107.1%	12.2%	30,969	663.1%	10.8%	8,569	98.8%	3.0%

## ● 2025年 近畿圏 仕向国別輸出実績

国名	数量 (KG)			金額 (千円)		
		前年比	構成比		前年比	構成比
オーストラリア	28,536	317.2%	37.2%	553,725	362.6%	52.6%
中国	15,826	102.0%	20.6%	158,351	148.7%	15.0%
アメリカ	13,489	96.8%	17.6%	126,705	140.7%	12.0%
香港	2,574	227.6%	3.4%	44,217	70.8%	4.2%
フランス	5,124	157.7%	6.7%	32,391	136.8%	3.1%
台湾	2,969	80.0%	3.9%	27,726	118.5%	2.6%



## ● 2025年 経済圏・港別構成比

経済圏・港	数量 (KG)			金額 (千円)		
		前年比	全国比		前年比	全国比
近畿圏	76,725	132.9%	40.2%	1,052,516	174.1%	57.9%
関西空港	22,150	229.3%	11.6%	437,452	258.2%	24.1%
大阪	38,462	129.0%	20.2%	432,336	152.4%	23.8%
堺	10,430	143.9%	5.5%	148,758	165.0%	8.2%
その他	5,683	51.6%	3.0%	33,970	55.4%	1.9%
首都圏	68,711	105.7%	36.0%	578,023	114.4%	31.8%
東京	36,297	105.0%	19.0%	261,900	100.1%	14.4%
成田空港	14,902	133.2%	7.8%	261,081	154.5%	14.4%
横浜	16,795	92.5%	8.8%	52,427	76.4%	2.9%
その他	717	64.7%	0.4%	2,615	42.9%	0.1%
中部圏	13,669	104.8%	7.2%	59,873	131.7%	3.3%
名古屋	13,088	106.2%	6.9%	57,598	140.2%	3.2%
その他	581	81.9%	0.3%	2,275	52.1%	0.1%
全国	190,659	113.6%	100.0%	1,816,502	142.8%	100.0%



○2026年は確報値、2025年は確々報値、2024年以前は確定値となります。

○本特集における経済圏は以下の都府県を含むものです。

近畿圏：大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

首都圏：東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県

中部圏：愛知、岐阜、三重、長野、静岡の5県

○港別の貿易額は、その港を管轄する税関官署の貿易額を集計したものになります。

成田空港は、東京航空貨物出張所および成田航空貨物出張所の合計値となります。

○金額はFOB価格で集計しています。

○表示単位未満は四捨五入しています。

○本資料における過去最高は1988年以降の比較となります。

○本資料を他に転載する際は大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

○本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課までお願いします。（電話06-6966-5385）